



鳥獣保護センターで収容した野鳥たち！ひだりから、カワセミ、ウソ、ミサゴです。

## 鳥獣保護センターでは幼傷病個体を収容

鳥獣保護センターには様々な種類のケガをした野鳥が搬入されます。保護された際は保温と安静のために、しばらくの間ダンボール箱で飼養します。餌の摂取状況や体調を確認し、徐々に広いゲージへと移し飛翔状態などを確認し、元気になったことを確認して野生に帰る“放鳥”となります。

## かくれんぼ上手のオオコノハズク



この写真のどこかにオオコノハズクがいます。どこにいるかお気づきですか？梁の上で身じろぎせずじっとしています。小鳥などは広いケージに移動すると、枝から枝へせわしなく飛び移ります。しかし、猛禽類は省エネタイプであり動きがじっとしています。それでも多くの猛禽類は、給餌や清掃のためケージを開けるとスタッフから逃げる動作をしますが、オオコノハズクは微動だにしません。初めて広いゲージに移したあと

は、なかなか見つけられず逃げてしまったのかと冷や汗をかきました。

保護時は、どこかにぶつかったようで脳震盪の所見がありましたが、時間の経過とともに回復し保護された近くの山林で晴れて放鳥となりました。かくれんぼ上手の本領を発揮して、すぐに見失ってしまいました。



羽角

ダンボール箱で飼養中警戒しており、身をすぼめているので羽角が目立ちます

## 頭の位置が変わらない様子



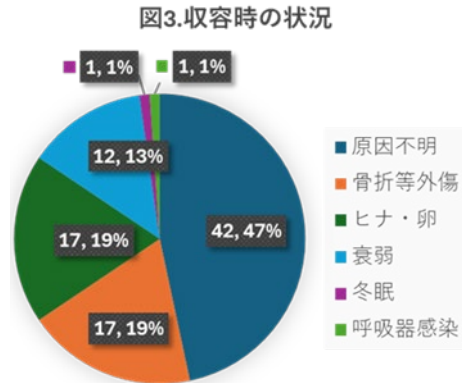
フクロウが常にこちらを向いています。羽の向きを見ても、ひだり・正面・みぎと頭からは向きが変わっていません。放鳥前に羽ばたきに異常がないか確認する際、体を動かしても頭の位置が水平を保てるか観察します。脳神経系に異常があると、水平が保てず頭がぐらぐらと揺れてしまうことがあります。

## 令和6年度の鳥獣保護の状況

収容実績は、鳥類 44 種類 87 個体、獣類 2 種類 2 個体、詳細は表 1 のとおりです。

表1.収容鳥獣の詳細			
種名	個体数	種名	個体数
オオハクチョウ	10	カンムリカイツブリ	1
セキレイ	5	キジ	1
ツバメ	5	クマタカ	1
フクロウ	5	コゲラ	1
スズメ	4	コハクチョウ	1
トビ	4	コミミズク	1
ヒヨドリ	3	シメ	1
ベニマシコ	3	ダイサギ	1
ミヤマホウジロ	3	ツグミ	1
メジロ	3	ハイタカ	1
オオルリ	2	ハクセキレイ	1
カイツブリ	2	ハリオアマツバメ	1
カワラヒワ	2	ヒガラ	1
コムクドリ	2	ホオジロ	1
セグロセキレイ	2	マガン	1
チゴハヤブサ	2	マヒワ	1
ノスリ	2	ミサゴ	1
アオジ	1	ムクドリ	1
アカエリヒレアシシギ	1	ヤマガラ	1
インヒヨドリ	1	ヨタカ	1
オオタカ	1	ニホンノウサギ	1
オナガ	1	ヒナコウモリ	1
オナガガモ	1	合計	89個体
カッコウ	1	鳥類	44種類
カワセミ	1	獣類	2種類

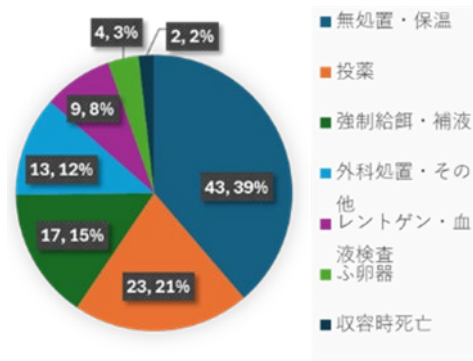
収容時の状況は、図 3.のとおりです。多くはただ飛べないとの原因不明で収容されます。次に骨折・打撲・外傷等の外傷が 19%と多く、原因は交通事故・窓ガラスへの衝突と思われます。同じく 17%と多いのが卵・幼獣系の保護で、草刈りや木の伐採・他鳥獣からの襲撃が原因で収容されます。



1

処置の内容は、図 4.のとおりです。無処置・保温が 43 例と最も多いです。これは近年多発する高病原性鳥インフルエンザ対策のため、遺伝子検査で陰性確定するまで処置できないためです。

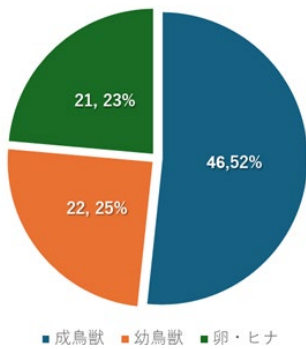
図4.処置の内容



保護鳥獣の成長過程の割合は、図 1.のとおり、成鳥獣と卵・ヒナ及び幼獣系の割合は概ね半々です。

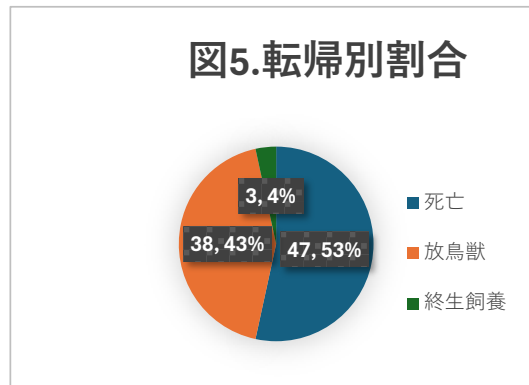
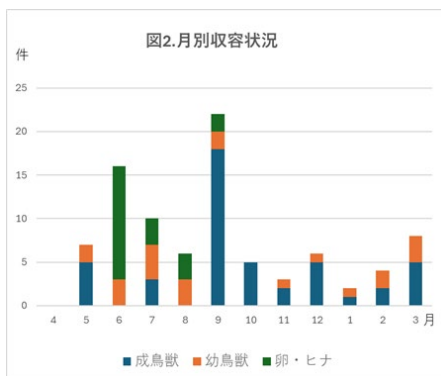
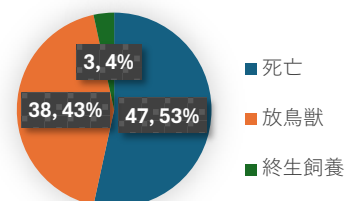
月別収容の状況は、図 2.の通りで、卵及び幼鳥獣は、5月から8月の春夏の繁殖時期に多くなります。当年9月の上昇は 15 羽の違法飼育摘発のための特殊事情です。

図1.成鳥獣と卵及び幼鳥獣の割合



令和 6 年度の転帰割合は、図 5.のとおりです。放鳥獣は例年 30%程度ですが、令和 6 年度は 40%台に近づきやや良好でした。

図5.転帰別割合



## ヒナを捕まえてはいけない！



この写真は真夏に当鳥獣保護センターに運び込まれたヒナです。道端に佇んでいたのを連れてこられました。拾い主はしばらく見守っていたようですが、近くに親鳥がいそうもないので、親からはぐれたかわいそうな子と思って捕まえてしまったようです。親鳥は、人がいると警戒して子に近づかないのです。ヒナがいたら拾わずに見守っていてほしいと思います。しかしこれがカラスだったら、親鳥は絶対に人間を許してくれなかったはずですけどもね。不思議です。

段ボール箱にちぎった新聞紙を敷き詰めた中で、鋭い爪で踏ん張り、ちんまりと屹立している小さな勇者と目が合いました。こんなに小さなヒナでも、くちばしはすでに先端が刃物のように尖り、ぐっと曲がって立派です。目はつりあがり、眼光鋭く殺気立っていました。さすが野生です。

## 「私の手から餌を食べるな！」

野生動物は本来ならヒトの手からエサを食べてはいけないのです。

冷凍ヒヨコをピンセットでつまみ、くちばしに近づけてみました。相変わらず私に飛びかかると睨みつけてきました。連れてこられるまでは、親鳥からくち移しで貪り食う食欲はあっただろうに、くちばしは閉じられたまま。ピンセットで押し付けられたヒヨコでベトベトのまま、睨み合いがしばらく続きました。

硬直した緊張が上り詰めたその時、くちばしいっぱいに着いたヒヨコを迷いなく一瞬で飲み込みました。途端に尖っていたヒナの目が丸くなり、微かに胸を膨らませて小さく震えました。

ヒナはこの瞬間、ピンセットの先の黄色いものの味を知ってしまったのです。

それをきっかけに、食べ物だろうと、ただのピンセットだろうと、目の前に近づいてくるものに反射的にくちばしを開けるようになりました。自然界では無力な私に、思っきりすがってくるこのヒナが本当に地球上で一番弱い動物であろうはずはありません。

二週間後、産毛が生え変わり、胸の毛に鮮明な縞模様が現れました。ヒナの名はハイタカと知りました。肩がぐっと張り、主翼を広げた姿はつつやと凛々しくなりました。兄弟はとっくに狩りは出来ているのだろうか。凍らせてあったヒヨコは、丸ごと食べられるようになったけれど、自分で獲物を捕まえられるのだろうか。

時折、カラスの鳴き声にすっと首を伸ばし、周囲に敏感になり始めていました。森の先にある高い空を見上げる姿には私にすがりついてきた面影はありません。野生に帰る準備でしょうか。

## 別れはいつも突然に

それは朝の小屋のお世話の時のことでした。高い梁の上から私を見下ろす精悍な目つきはいつも通りでした。逞しくなったなあと、不安と期待が入り混じったまま作業を始めようと背を向けたその時、彼は、私の肩を踏み台にして、開いていた小屋の扉の隙間をすり抜けて、躊躇なく飛び出たのです。

肩への強烈な衝撃は、凝縮された野生のメッセージのようでした。彼は、見送る私を残して颯爽と遠ざかっていきました。私は勇者のように広げた羽ばたきを追いながら、森の高みの向こうへ消えていくまで見送りました。

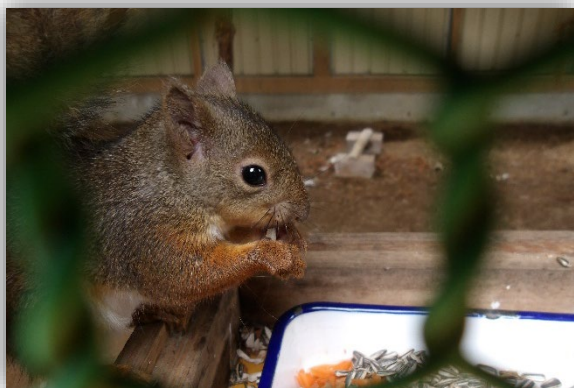
### ニホンリスへの授乳

生後 30 日程度のニホンリスを保護し、約 3 週間注射器を使用して調製粉乳を与えました。

注射器の先端は固いので、1 cm 位のシリコンチューブを付け、お母さんに少しだけ近づけました。

夜の給餌（授乳）がある場合は、職員が交替で自宅に連れて帰っています。

最初は 1 回に 1 cc ほどしか飲めませんでしたが、3 週間後には注射器を自分の手で持って 10cc を飲むようになりました。また、体重も保護したときの 60g から 100g に増え、その後、少しずつ固形食に移行しました。そして大きくなり、自然に帰りました。



### こんな仕事もしています

◇コンクリート平板の敷き直し

施工前

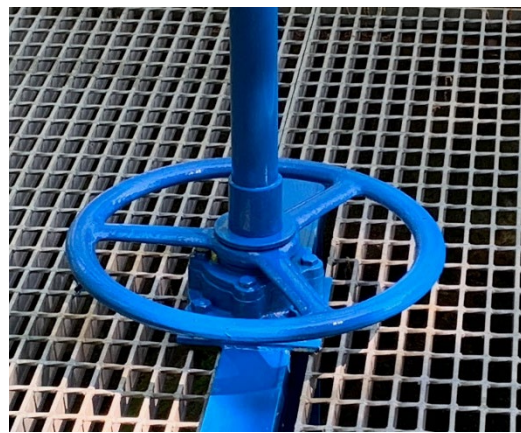
施工後



◇放鳥池堤体ゲートの塗装

施工前

施工後



## 傷ついた野生鳥獣の保護について

- ◆ けがなどをしている野生鳥獣を見つけたら、手を触れずに元気があればそっと様子を見守ってください。
- ◆ 衰弱して動けないようなときは、担当の広域振興局へ連絡をお願いします。  
保護をするかなどの判断を行います。

担当広域振興局	管轄市町村	連絡先
盛岡広域振興局保健福祉環境部	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町	019-629-6583
県南広域振興局保健福祉環境部	奥州市、金ケ崎町	0197-22-2831
県南広域振興局保健福祉環境部 花巻保健福祉環境センター	花巻市、北上市、西和賀町	0198-22-4921
県南広域振興局保健福祉環境部 一関保健福祉環境センター	一関市、平泉町	0191-26-1412
沿岸広域振興局保健福祉環境部	釜石市、大槌町	0193-25-2702
沿岸広域振興局保健福祉環境部 宮古保健福祉環境センター	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	0193-64-2218
沿岸広域振興局保健福祉環境部 大船渡保健福祉環境センター	大船渡市、陸前高田市、住田町	0192-27-9913
県北広域振興局保健福祉環境部	久慈市、洋野町、野田村、普代村	0194-53-4987
県北広域振興局保健福祉環境部 二戸保健福祉環境センター	二戸市、軽米町、九戸村、一戸町	0195-23-9206

- ◆ 有害性が高い次の鳥獣は、保護の対象ではありません。

鳥類：ハシブトガラス、ハシボソガラス、マガモ、カルガモ、キジバト、ドバト、アオサギ、ゴイサギ、カワウ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ニュウナイスズメ  
 獣類：ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ、アナグマ、ハクビシン、キツネ、タヌキ、ノリス、ノネコ、ノウサギ、イタチ

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10番1号

岩手県環境生活部自然保護課

TEL 019-629-5371 (代表)